

【From Kobe 12月 師走の便り】

2019.12.15.

師走の便り いろんなことのある一年 思いも新たに

まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で

◎ 収録 師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

From Kobe Mutsu Nakanishi



2019年 12月 2019師走 from Kobe

神戸では ルミナリエ・まばゆい希望の灯も ともり、
今年一年 いろんな思いが駆け巡る師走

Merry Christmas!! クリスマス おめでとう

クリスマスが 沢山の笑い声と暖かい友情 そして、
愛を運んで来てくれますように。
そして、それがずっと続きますように

多くの人にささえられながらも
また、1年 元気に過ごすことが出来ました
本当に感謝です

若者・若手など笑顔に惹かれていた友人や仲間
遠征の先方に感謝の気持ちを込めて

いつも、思いを寄せています。
「忘れない 忘れないで 帰郷があることを」

まだまだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、
また 一年 お互いスクラム組んで 若いを笑顔で
よろしくお願ひします

2019.12月 from Kobe
by Mutsu Nakanishi



ルミナリエの灯に 思いも新た

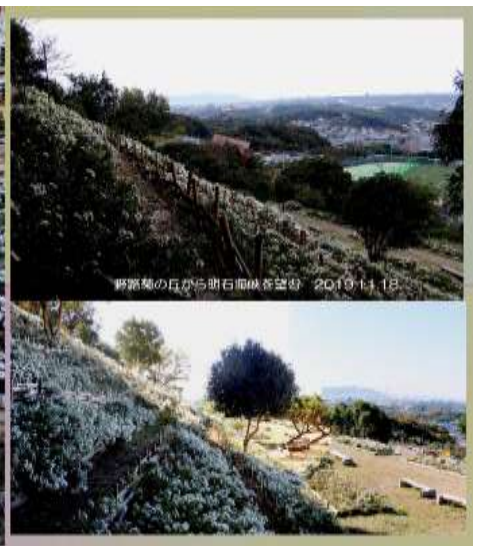
平和な生活 とともに生きるありがたさをかみしめ 心も新たに

また 一年 前むいて お互いスクラム組んで 若いを笑顔で

God be with You!! 師走 Mutsu Nakanishi



街も野山も紅葉が彩る真っ青な秋の空
心地よい風をいっぱい吸い込んでいつもの景色も違って見える
心身共に生き返れと



横尾山腹を真っ白に染める兵庫泉花「のじぎく」2019.11.18&11.26

野路菊咲いて 先に逝った仲間を偲んでの秋送り 元気で動けることを感謝しつつ 今を元気に
地球温暖化が抜き差しならぬ時代 その自然の災害の猛威が直接我が身にも
そんな激動の中で 身勝手な政治に振り回され続ける定見なき日本 日本はどこへ行くのか・・・
COP25 あのスウェーデンの 16 歳の若者が世界を相手にあれだけ地球危機を訴えている。
それも世界の首脳たちを前に堂々と。そんな問いかけにどうこたえればよいのか・・・
また、日本の縄文をもっと知ってほしいと言い続けてきましたが、やっとまたユネスコ世界遺産登録の土俵に。
最近 縄文についての記事や解説が新しい視点で語られるようになったのもうれしい。

いろいろなことがあった一年 あれもこれもとあたまを駆け巡る・・・・・・・・・・・・・・・・
令和元年が暮れてゆく 早く若ものの時代へ舵を切れ!!との思いです
本年一年 和鉄の道にお付き合いありがとうございました。 また 来年もむよろしく

最近 老化や体調不調などの療養・リハビリに頑張っている仲間の近況を聞きました。
また、"元気やぞ!!"と笑顔を送ってくれた仲間もいる。
うれしい連絡 仲間にも
歳しい日々と察しつつ、一日も早い回復を祈っています。
仲間がいる!! 仲間の笑顔はみんなの応援歌!!

老化・病気・介護などの困難にみんながむきあう 新時代
仲間の笑顔を活気に!! スクラム組んで 元気に今を!!

心もあらた 新しい時代を前向いて
後期高齢になって 老化そして終活がよぎる歳に
でも 好奇心さえあれば...と 奮い立たせて毎日勝手気ままな風来坊です

本年もあとわずか、お互い無理せず元気に!!
忘れない 忘れまい みんな仲間がいる
我が道をしっかりと God be with You!!

2019.12月の夜更け home page のBGMに耳を傾けながら
From Kobe Mutsu Nakanishi

【From Kobe 12月 師走】 師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

2019.12. 8. Mutsu Nakanishi

師走になって、ことし一年を振り返って その時折々 書き綴った季節の便りの中でお送りした言葉。ほんとうに毎回 同じ言葉ばかりでした。

インターネットやニュースでは、今が一番と社会への満足度を謳歌する言葉・番組があらわれるが、何とはなしに息苦しく閉塞・不安が漂う社会。なにか自分には合わない。ついていけないなあ・・・と。後期高齢になって非生産的な日々を送る今 取り残されているとの不安感が頭をよぎる。「でも ほんまにええのか・・・ 現実はどうだろう・・・」

そんな師走の中で発表された OECD が3年ごとに行う世界各国の15歳を対象とした学力総合調査。(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野)で、高い学力を維持しているものの、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。日本の現在の社会に与える強烈なアッパーカットである。教育の問題 子供の問題と過少評価する向きもあろうが、この問題今の日本の現実 社会の問題。日本が一人 国際社会から取り残されてゆく深刻な姿が映されている。でも 日本社会はそれに気が付かない。

2019.12.4. 朝日新聞が伝える OECD の 15 歳学力調査結果と天声人語の記事

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/OECDasahikiji191204a.jpg>

無知盲目の仲間を募って 数の力でなんでも押し切る刹那の社会 美辞麗句を並べ 中身はそっちのけ
なんでもかんでも 自己責任に転じる。 自分の政策を「・・・ミックス」と自ら声高に言いまわるのは
自己陶醉そのもの。

セーフティネットがずたずたになった国土・地方は疲弊し、ますます格差が広がる刹那の日本の情報社会
この秋 30歳40歳の働き盛りの給与水準は10年前の給与水準よりも10%以上低下しているとの
統計が発表されている。その上 消費税は10%に。 一方会社は好景気を謳歌し、高収益・内部留保
をため込んでいる。そして 人手不足が深刻だという。全く不思議な現実。

これは人為的な政策の代物の何物でもない。

片手間の非正規雇用対策ばかりでなく正規雇用の拡大 そして何よりも働く場・新しい雇用を生み出す産業創生
に注力せねば・・・・。でも 新産業創設の研究開発費の投入・分配の見識のなさは目に余る。

もう技術立国は影薄く、大企業は今の事業路線にしがみつき、次の事業がない。

これでは新しい雇用は生まれない。もう 大企業依存・イベント依存から脱却せねば・・・

湯水のごとく民衆の懐に手を入れて使う国債・消費増税頼みも限界に・・・・・・・・

昔はよかった・・・という言葉も聞かれるようになった今、もう 破綻寸前と映る

もっと 皆が明るい社会にならないものか・・・そんなことばかり言ってきた一年だったと映る。

そんな師走の中で発表された OECD が3年ごとに行う世界各国の15歳を対象とした学力総合調査
(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野)で、数学・科学の分野では高い学力を維持しているもの
の、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。

数学リテラシー・科学的リテラシーと書かれたリテラシーとはなにか・・・・

また読解力の問題とは………… インターネット等で調べると下記の通り。

要は社会全体の活力の源泉 知識は非常に高いレベルであるものの 知恵・判断・確かな行動アプローチが出来ないと
いわれ、社会の活力が失われているとの警鐘。

常々 多くの人々が指摘する日本社会の課題と現状があからさまに国際的にも指摘された。

国際社会がし認める国力の先行きを示す重要な指標でと言える。

強がり言うまい。 今日本の現実はこのようだ…………と。

そう思うと本当にいろんなことが見えてくる。

この一年 日本で起こった数々の問題の根源にこの指摘が当てはまる。

◎ 読解力と「リテラシー (literacy)」とは、

読み書きができる能力や、その分野の応用、活用力、理解力を意味。

「リテラシー」は、単独でその言葉だけを使うことは少なく、「コンピューターリテラシー」や
「メディアリテラシー」「環境リテラシー」といった風に使うという。

◎OECD 調査 読解力の設問

解説を含め2019.12.4. 詳細が示されている東京新聞の記事を紹介する

「ラパヌイ島」と題する設問

ラパヌイ島(イースター島)で調査をしている教授はブログで、

モアイ像が作られた当時にはあった大木が現在は生えていないことに疑問を示す。

木の乱伐が原因とするジャレド・ダイヤモンド氏の著書「文明崩壊」の書評、

ネズミが種を食べたためとする科学者の反論を紹介する記事があわせて示される。

生徒たちはそれら三つの文章を読み、大木が消滅した理由を根拠を挙げて説明することを求められる。

自らの可能性を広げ、社会に参加するために文章を理解して熟考し、考えを表現する力。

それがOECDが提示する読解力だ。・・・・・・・・

三年ごとの調査結果は教育政策に大きな影響を及ぼしてきた。

ゆとり教育転換の一つの契機は、読解力などが低下傾向にあったことだ。

2007年に再開された全国学力テストの出題はPISAを強く意識したものとなっている。

202年度から本格実施される高校の新学習指導要領では国語を「論理国語」「文学国語」などに再編する。

文学が片隅に追いやられるのではないかと文学界などから懸念の声が上がっている。

調査では読書についても尋ねており、興味深い分析結果が出ている。

雑誌以外では「読む」グループの方が「読まない」グループよりも得点が高く、

最も得点差が大きいのは小説や物語などのフィクションだった。次いで新聞、漫画となっている。

「論理的」と仕分けされた文章だけが、読解力を育むとは限らないことを示唆しているのではないか。

読解力は、多様な養分を吸収してゆっくり育つ木のような力なのだろう。

読解力育成のため、社会や理科など国語以外の教科でも、文章のまとめりなどを意識した授業改革に取り組み始めた学校もある。調査の順位のためというよりは、子どもたちの未来を広げるために、学校や社会が豊かな養分を含んだ土壌でありたい。

インターネット記事検索でみつけた東京新聞 2019.12.4. 記事より 全文整理

これは今の学校のOX式詰め込みの受験教育の中では最初から設問に詰まって解けないわ……と。

でも一部の私学ではそんな読解力中心の国語授業が行われ、他の授業と連動されているとの話を聞いて、余裕があるなあ。。。と感心したこともある。

天声人語氏は「細かな知識はインターネットで得られるが、知識よりも知恵を出して、事態を突破する力が求められる」というOECD担当者の言葉を紹介している。日本に一番今かけている点との指摘。

知識がいやというほど積み込まれていく日本の今の画一的な教育への痛烈な一発である。

みんながみんな社会全体が同じ方向にむけた発展途上の高度成長と成熟した今の情報社会には当然違いがある。

今の時代 一部の人に情報が限らず 同じ情報を広くみんなが持っている。そこに 多層多重の芽があり、それを封じて 同一を強いられることに息苦しさをを感じるし、異を感じる時代なのである。で

も 日本では今 あまりにも「不思議やなあ」「おもしろいな」などの発想や知識から広がる「知恵」がない。

付和雷同 感激・感動ではなく盛り上げの言葉が空虚に響く。

知った知識を少し披露しただけで「それがどうしたの…… ああ めんどくさ」との言葉がすぐに。

知識から知恵・発想への転換が全く無視され、同一同調が一番される日本昨今の情報社会。

なにも子供たちの教育問題だけではない。今の日本の社会全体がそうなっているのだ。

とりわけ、日本を動かしてきた政治・大経営者たちの言動をみれば一目同然……

ほかにこの12月 心に響いた記事がいくつかありましたので、転記。

この秋 重多様な社会への脱皮について、それぞれの個性を意識する多様多重社会の醸成を考える本や新聞記事・番組に数多く出会うことがあり、自分にはできなかった反省も込めて。

特にあまりに個性豊かで 仲間・先生・学校での集団生活に溶け込めず、「好きなことを 好きに 好きな時に」と

その都度 自分の実学ノートに記してきた7年間の記録をひも解くNHKの番組NHK「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さん著「エリボシカミキリ」の中にある言葉

やこの秋読んだ「ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造」にも心に響きました。

また、本年は仲間がみんな後期高齢を迎え、老化と向き合う歳に。

老化と闘い、また先に逝ってしまった仲間もいる。この秋は仲間を思い浮かべながらの毎日散歩になったことも数多し。

でも まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で

皆に世話になりながら 勝手気ままにと。

本年どうもありがとうございました。 また来年。

From Kobe Mutsu Nakanishi

衰退の兆候

「競合する全勢力を抑え込み、すべてを自分と同じ鑄型に流し込むのに成功してしまうと、その国の向上は終わり衰退がはじまる」
 「抵抗を齎る可能性ない人」は「理性」を必要としなくなり、その意思を押し通すようになる。
 「間違っていると告げてくれる人の話を聞けば、いらだてしまう」

桜を見る会 危うい選挙独裁

寄稿

齋藤 純



安倍晋三首相（前列中央）、麻生太郎副首相（前列右から4人目）と記者らによる「桜を見る会」の参加者＝4月13日、東京都新宿区

抵抗の可能性を排除 民主主義に傷

「競合する全勢力を抑え込み、すべてを自分と同じ鑄型に流し込むのに成功してしまうと、その国の向上は終わり衰退がはじまる」。19世紀英国の思想家、J・S・ミル「代議制統治論」の一語である。「抵抗を受ける可能性のない人」は、「理性」を必要としなくなり、代わりに「感情」を押し通すようになる。「間違っていると告げてくれる人の話を聞けば、いらだててしまう」。

「桜を見る会」やその「昨夜」に際して政権中枢がどういった行動に公選選挙法や政治資金規正法に反する疑いがあることは、すでに指摘されていることである。公選が実質的に「桜を見る会」の権威に面しては、安倍政権は、その疑いについて、説明を怠っている。この問題については、野党が本陣を入れているのが、この問題の救いである。

「桜を見る会」やその「昨夜」に際して政権中枢がどういった行動に公選選挙法や政治資金規正法に反する疑いがあることは、すでに指摘されていることである。公選が実質的に「桜を見る会」の権威に面しては、安倍政権は、その疑いについて、説明を怠っている。この問題については、野党が本陣を入れているのが、この問題の救いである。

「桜を見る会」やその「昨夜」に際して政権中枢がどういった行動に公選選挙法や政治資金規正法に反する疑いがあることは、すでに指摘されていることである。公選が実質的に「桜を見る会」の権威に面しては、安倍政権は、その疑いについて、説明を怠っている。この問題については、野党が本陣を入れているのが、この問題の救いである。

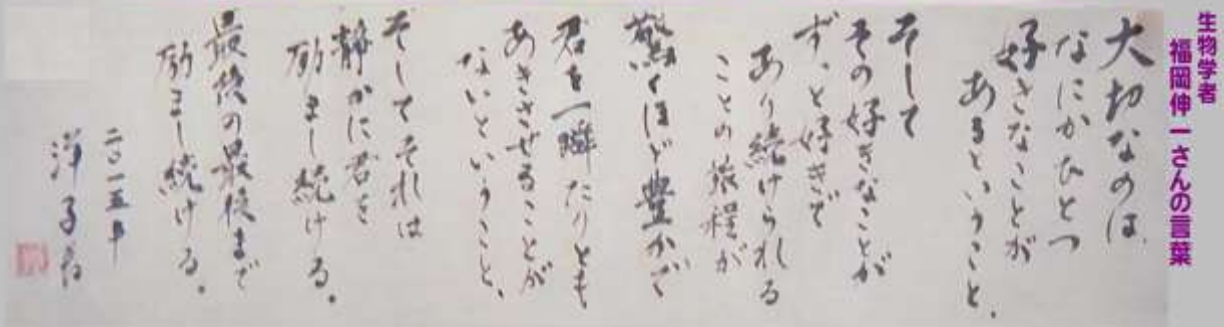


（早稲田大学教授）
 さいとう じゅんいち
 「早稲田大学」政治学専攻
 准教授。著書「公共性」

朝日新聞 2019.12.4. 齋藤純一さん寄稿 「桜を見る会 危うい選挙独裁」

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/191204sakuranokai.jpg>

孤独な小学生から中学・高校進学までの7年間 好きなことに向き合う自分を自学ノートに綴り、こころの通じあえる人たちとの交流をつづった番組
 NHKの番組「ぼくの自学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 福岡伸一著「エリボシカミキリ」にある心に響く言葉



NHK 「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さんの言葉
 福岡伸一著「エリボシカミキリ」より

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912jigakunote.jpg>



<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912yoshino.jpg>

- ◆ 金子書房 「ソーシャル・マジョリティ研究 -コミュニケーション学の共同創造-」
 発達障害者の側から ソーシャル・マジョリティ(社会的多数派)のルールやコミュニケーションを研究しました。
 「障害は個人の中にあるのではなく、多数派が作った社会と少数派の身体特性の間に生じる」
 なにかよくわからぬまま発達障害者とかたづけられ、排除される人が多数いる
 その人たちは社会的多数派のルールやコミュニケーションについてゆけないだけである。
 逆に社会多数派があまり意識していないが、社会的多数派のルールやコミュニケーションが多数あることを
 理解し、そんなルールなどを障害者側に立って研究することで理解が深まれば、
 お互いのコミュニケーションを生むことが出来て、より良い関係を生むことが出来る。

だまし絵 真実は一つなのか…… 多数派のおごり by Mutsu Nakanishi



絵の中にだまし絵という世界がある。
 このだまし絵 人のその時々感情・事情によって見え方が違う。
 今 画一的になんでもかんでも AI に任せて判断させようとする。
 知能ロボット万能論が伝えられている。
 でも この知能ロボットにだまし絵を見せて アクションを起こさせたら、どんな反応をするのか???

興味津 AIの判断万能を唱えるのは間違いではないか……

上記したソーシャル・マジョリティ研究の理解にも このだまし絵の理解が欠くことが出来ないと思っている
 そもそも 現世人類が幾多の困難を乗り越え、生き抜いてきた所以は
 相手の表情で共感・感応を醸成してきたからに他ならない。